

ブラジル国営石油会社における 「製油所オフサイト業務セミナー」の開催

1. 実施に至る経緯：

2008年の研修コースに参加したブラジル国営石油会社(PETROBRAS)の研修生から、「日本の石油会社の製油所オフサイト部門に関する最近の実態・情報等を同社社員に学ばせたいのでブラジルでセミナーを開催して欲しい」との強い要請があり、実施したものであります。

2. セミナー概要：

セミナーは、2010年8月30日から9月3日までの5日間、リオデジャネイロ市内にあるPETROBRAS UNIVERSITYの研修用教室で実施しました。講師は、JCCPの小島(研修部)をはじめ、外部からはコスモ石油(株)の川島氏(本社技術部)、JX日鉱日石エネルギー(株)の長山氏(本社海外事業部)、出光興産(株)の小林氏(徳山製油所)の4名で構成しました。主な内容は、製油所における石油製品の流れをはじめ、タンクでの貯蔵・在庫管理、製品調合、製品の品質管理、製品の出荷といったオフサイト業務全般にわたるものでした。

3. 実施内容：

初日は、「日本の石油産業全般並びに世界のエネルギー事情」に関する講義を実施しました。日本の石油産業の講義では、特に消費国である日本と産油国であるブラジル、更には民間石油会社と国営石油会社の違いをはじめ、石油資源の無い日本における石油の安定供給の重要性及び日本特有の石油産業の実態を中心に説明しました。また世界のエネルギー事情では、世界的に問題となっている地球温暖化、環境問題をはじめ、将来の一次エネルギー需要予測等、グローバルな講義内容でありました。

2日目は、「製油所のオフサイト部門全般に関する講義」を実施しました。特にオフサイト部門における組織・役割及び本社との関係、並びに製油所での位置づけを中心に説明しました。研修生からは、特に製油所の組織・体制をはじめ緊急時の連絡体制、社員教育、人材育成等に関する質問が多くありました。

3日目は、「製油所内タンクレイアウト並びにタンク及びパイプラインの補修・検査に関する講義」を実施しました。タンクレイアウト

に対する基本的な考え方をはじめ、原油・半製品・製品タンクの容量設定、棧橋・ローリー出荷基地での能力設定の考え方について説明しました。特にパイプラインの補修・検査での腐食・漏えいの問題を中心に、日本での品質維持・対策について多くの質問がありました。ブラジルと日本では、製油所を取巻く環境をはじめ地理的な条件等も大分違うため、特に製品の品質管理、パイプラインの保守管理に関して関心が高かったようです。

4日目は、「製品出荷における効率及び安全」をはじめ、「製品ブレンドと品質保証」、「原油・半製品・製品における備蓄戦略と実態」の講義をしました。製油所におけるTPMを中心とした安全活動、環境への取組み、クレーム対応等について説明しました。研修生からは特に、日本の石油会社でのTPM活動及び経営層との関わり方に関する熱心な質問が多くありました。

5日目は、「生産計画の最適化及びオフサイトエリアでのロス管理に関する講義」をしました。ブラジルでも専門の担当部署を設置し、実際の最適化の方法等、積極的に検討しており、今後とも最適化の分野に資源を投入していくとの話がありました。

4. セミナー総括：

ブラジル国内の各製油所から40名もの参加者があり、大変盛況でありました。同国は、日本とは比較にならないほど国土が広く、ほとんどの研修生が長時間かけてセミナーに参加しており、日本の技術並びに知識を吸収しようという意気込みが感じられました。また、研修生からのアンケート結果でも、ほとんどの研修生が日本での研修(CPJ)の参加を希望していました。近い将来出来るだけ多くの方々に参加できるように是非とも実現したいと考えます。

同社は南半球最大の総合石油会社であると同時に、世界でも有数のエネルギー会社ですが、ダウンストリーム分野においては、未だ発展途上という状況であり、JCCPとしても今後とも研修を通じ協力していきたいと考えています。

4人の講師のうち3人が初めてのブラジル訪問であり、時差の問題もありましたが、PETROBRASの研修関係者のご支援・ご協力のお蔭で本セミナーを無事終了することができましたことに感謝申し上げます。

(研修部 小島 和男)



研修会場



研修後の記念撮影